



子どもがしやすい けがの応急手当

気温も下がってきて、戸外で遊ぶ機会が増えてきますね。幼児期は転んだり、つまずいてすり傷を作ることにもまだまだ多いです。そんな時の為に、応急手当の方法をまとめてみました。

【すり傷、切り傷】

水道で傷口の汚れをしっかりと洗います。清潔なガーゼを当てて圧迫して止血します。その後、ばんそうこうや包帯などで固定しましょう。

大きい傷や深い傷がある。手や指が腫れて痛みが強い。傷口に異物が残っている。⇒このような場合は通院しましょう。



【打撲】

頭の出血は傷口をガーゼで圧迫して安静に。手足の打撲タオルで冷やします。

たんこぶがある。意識を失って意識が戻った。嘔吐する。強い頭痛がある。⇒このような場合は通院しましょう。



※こんな時は直ちに救急車を呼ぶ

頭：意識がおかしい。目の周りや耳の後ろにあざがある。けいれんしている。
胸やお腹：強く痛がり顔色が悪い。肩で息をして苦しそう。呼吸が速い。
手足：変形してその場所より先の色が悪く、触られた感触がない。



令和6年9月30日
社会福祉法人えどがわ
宇喜田おひさま保育園

目の愛護デー

10月10日は目の愛護デー。目の大切さを考える日です。10という数字を横にすると眉と目の形に似ていることが由来とされています。目の周りには、目を守る仕組みがあります。まゆげやまつげは目に汗やごみが入らないように、まぶたには目が乾かないようにするはたらきがあります。生まれたばかりは明るい暗いかわかる程度の視力しかありません。その後、周囲の人の顔を見たりすることで徐々に発達し色々なものが見られるようになります。個人差はありますが6歳くらいでおとなと同じくらい見えるようになると言われています。それまでが最も大切な時期であるため、目の異常を発見できる3歳児検診は重要です。

ハロウィン



10月に入ると街中はハロウィンの装飾でいっぱいになりますね！ハロウィンは秋の収穫を感謝するお祭りの日とされています。ずっと昔はお祝いを行うと同時に悪霊を追い払うお祭りがありました。おばけカボチャを飾るのは、その悪霊を怖がらせて追い払うために置かれたのが始まりだといわれています。お菓子をもらって歩くのは、お祭り用の食材をもらって歩く様子を真似したものだそうですよ！今は仮装をしたり、「Trick or Treat?」と言ってお菓子をもらったりする楽しいイベントの一つになっていますが、由来を知るとさらに楽しめるのではないのでしょうか。お家でお面やバックを作ってご家族で楽しんでみるのも楽しいかもしれませんね。

